

# がんば

## 会員の皆さまへ

育友会長

吉田重信



新学期と  
共に育友会

にも新しい若々しい会員の方々が多く見られるようになってきました。

育友会の今年度の活動計画は、各専門部で具体的に決定され、既に動き出しております。本校育友会では、町内地域を中心とした活動が主になって、今日に至っておりますが、育友会の両輪とも云うべき学級学年活動はどうでしょうか。

町内育友会には、少なくとも半数以上の出席者があります。一方学級育友会には、どうして出席者が少ないのでしょうか。色々と事情があるとは思いますが、町内育友会と

同じように、気軽に出席出来る雰囲気を作り出すためには如何にすべきか、学級部の方々は、大変くろうしておいでのようにです。会員の皆様の御意見を御願ひしたいと思います。

既に御存知の通り体育館は昨年度地域の各種団体の方々、会員皆様の御協力によりまして、本年度完成する事になりました。その広さは、フロアがタテ31mヨコ27m、それにステージをつけた、社会体育にもりっぱに使用出来る広さの体育館が、三学期に姿をあらわすことでしょう。体育館建設にばっとうした結果、「創立百周年記念事業」の分野がまだまだ遅れております。

報部 印刷所  
会友部 印刷所  
育友部 印刷所  
小育友部 印刷所  
三小育友部 印刷所  
島三小育友部 印刷所  
発報 印刷所  
広報 印刷所  
印るかわ印刷所

〔第44号〕

本年は、記念事業実施委員会の立案にしたがって、育友会でも特に「三小百年誌」の部で会員皆様方に調査或は資料さがし等で、協力いただく事が多くなると思いますが、私達の学校の百周年です。皆様おゝいに頑張ってください。同窓会を中心に地域ぐるみで育友会が先頭になって、りっぱな百周年の記念事業をなしとげようではありませんか。子供達を中心に、学校と育友会ががっちりスクラムを組んで、何事にも話し合の場を多く持つて、お互の気持を一つに溶かして、子供達によりよい教育の場となるために、この一年間、会員皆様の御協力で、育友会がますます発展しますよう、切に御願ひ致します。



## PTA幹部研修会に 参加して

育友会副会長

宮崎ヨシエ



去る六月五日、西有家公民館に

て幹部研修会が行われました。午前中佐賀大学原岡一馬先生の「子供が発達と家庭教育について」の講演があり、内容として

◎親と子供の関係について

○子供と親の対話、コミュニケーションが大切である。

○大人はどう考えているか

子供は何を考えているか

を知る事が大切である。

子供の発言を聞き、親も

考えて見る必要がある。

◎しつけの面では社会に生きている事を家庭でしつける

子供に責任性、自主性、協調性をもたせる事も大切である。

いろいろな家庭教育の中で

家庭環境（家庭での人間関係を作る）が最も大事であると

強調されました。家庭こそ安心感を与える所であり、打明けて話せる所でなければなら

ない。親として豊かで望ましい環境づくりに努力してい

き

たいものです。

午後は各分科会に分れ、私は一分科会「学級学年集活

動をより活発にするための

だてを考えてみよう」という

研究討議に入りました。小中

学校合同で最初に有家小より

活動状況を発表され、学級部

だよりは自分たちが学校に行

き先生より学級情報をつかん

で、自分達で発行されている

様子をきき、熱心さには感心

致しました。

後半は実践面で討議され、

いつも出される出席率につい

ての意見が出ました。口之津

加津佐方面は出席率は90%と

高成績を納められておられま

した。これも地域的、職業的

の差だと感じました。

助言者の立場より

(1) 役員の熱意

行くと役員にさせられるだらうというのではなく、役員のいない運営は不可能なので役員が率先して皆さんも協力して出席する様心掛けなければいけない。

(2)計画性をもたせる  
年間計画は学校全体、地域全体より調査して魅力ある計画をたてる。  
(3)推進委員をきめて運営する  
以上の様な意見が述べられま

### 情緒障害児学級設置について

学校長 林田 長

最近、とみに子どもの問題行動、異常行動について訴える親や教師の声が多くなってきました。しかし、よく見ると、これらの問題の行動を示している子どもたちは、知能や身体に欠陥があるわけでもなく、家庭も社会的、経済的に問題もありませんし、またその親たちが無理解であるということもないのです。それにもかかわらず、依然として問題の行動はおさまらないで親や教師を悩ませて苦しめて

ているのです。  
従来、このような子どもはこまいった癖、いやな性質やしぐさをもった子だと考えられて、集団教育の場としての学校では、教師もその教育の熱意にもかかわらず、どこから手をつけてよいのかわから

した。これを機会に会員として皆で協力し工夫研究してよりよい自分たちの学年、学級集会を突りあるものにししたいと思います。

ず、問題の行動が改善や消失を見ないままに次の学年へとパトントッチされていったのが実情です。  
しかし、このような問題行動児を放置してよいはずがありません。

そのために、鳥原市で昭和五十年から第三小学校に情緒障害児の指導を専門に行なう学級を設置しました。これ

が情緒障害児学級なのです。この学級の教育の目標は、知能やからだに欠陥がないのに、感情のかたよりによって集団生活にとけこめない子どもたちの情緒の安定をはかりすんで集団生活に参加できるようにすることにあります。  
この学級へ通級が必要だと考えられるのは、次のような問題行動をする子どもです。

- 学校へ行きながらなかつたり、また登校する時間になると、頭痛とか腹痛とか嘔吐感をもよおす子ども
- 学校や人の前では、口をきかない子ども
- 自分のからにとじこもっている子ども
- ちょっとしたことが気になる子ども
- 少しでもじっとしておれないきわめて落ちつきのない子ども
- すぐかっとなる子ども
- 友だちと遊べない子ども
- 何をすることも自信がなかったり、親(特に母親)から離れることを極度に不安がる子ども
- まぶたがふるえたり、顔の一部をけいれんさせたりするチック症の子ども

- 爪かみ、指しゃぶりをする子ども
- 不眠になったり、人前に出ると顔が赤くなったりする子ども
- なんども同じ行為をくりかえさないと気のすまない子ども
- 時に、思いもよらないような突発的な行為を不意にする子ども
- いたづらや万引を何度もくりかえす子どもなのです。

最後に学級の概要を述べます。

- ・学級数 一学級
- ・担任 小峰忠与士教諭 伊藤節子教諭
- ・対象児 市内に在住する学令の情緒障害児
- ・指導形態 通級制、固定制(校内通級制)
- ・開設 五十年九月一日
- ・施設 遊戯指導教室 一 心理治療室 一 学習室 一 相談室 一 研究室



### 藤田主馬男氏 御勇退

藤田さんは本年三月三十一日付で市役所の吏員をおやめになりました。藤田さんは、昭和二十八年五月より私たちの三小の用務員として務められてより、今日まで二十二年間という長い間、三小のためにずっと引続いて働いて下さいました。今の育友会の皆さんの中には小学校時代に「親切なおじさん」としてなつかしい思い出と共によく知っておられる方が多いと思います。私たちは藤田さんの今まで

の苦勞とご働きの心から感謝申し上げますと共に、今後ますますご健康で、そして生き生きとご多幸でありますようお祈りいたします。

なお、後任には市役所衛生課より片岡博道氏が七月一日より着任いたしました。

育友会長 吉田重信

### 子どもと

#### 自転車

浦田町上

小沢 ニキエ

先日のことである。一日の勤務を終えて帰る途中、四、五名の人だかりに出会いました。何事かとのぞいてみると、三、四年生位いの男の子が、路面の砂でスリップして、自転車で倒れているところでした。ハンドルで胸を強く打って、一瞬呼吸困難に陥り、顔面蒼白になり、立ち上がることができずにいるところでした。こういう事故は、自分自身さえ注意すれば防げることで、もし、この時対向車が走っていたら、大惨事になっていたのでは、と思うと、身の毛がよだつおもいでした。

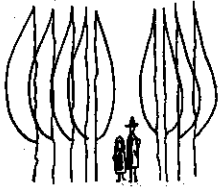
五月二十二日の「お母さんの自転車教室」もこんな事故を防ぐためのもので、映画では、子供達の忍耐の限度、好奇心からくる思いがけない行動、あらゆる角度からみた子供達の動きを良く捕えてあり、私達母親にとって反省させられることのみでした。

又六月五日の幹部研修会の席上で、校外指導の一環として、自転車乗りの指導方法が色々と論議されましたので、子供達の自転車点検、自転車乗りの実技指導を行っていること等、詳しく説明しましたところ、他校の方々が良い参考になりましたと、感心しておられました。

果してこれを、どれだけの人が実施されているか、疑問ですけれど、勇気を出して実行に移したいと思えます。

我が家の長男は、二年間も、お年玉、其の他の小遣を棒に振ってまでも買収求めるサイクリング車。

とにかく子供達の目からみて、魅力ある乗り物ほど、危険が共なうということ、母親の私達は、認識しなければならぬと思えます。



### わが子の

#### 交通事故に

思 っ

浦田町上 元田喜美

「兄さん、起ちゃんが事故にあつたとよ」と弟が素足で知らせに来ました。「姉さんは、見ない方がいいですよ」と言いましたが、私も気が気ではありませんでした。主人はすぐ走り出しました。腰が抜けた様になって足が思うように進みません。どうしたのだろうか。自転車で道路を横切ったのじやなからうかなどと思いつながら現場へ向かいました。現場へ行くと救急車がい、人がたくさん集まっています。出血多量で死ぬのじやなからうかという言葉が耳に止まりました。車の下にいます。起ちゃんはい

「こよよ。」と言われ、見ると血だらけになった子供が頭を箱にのせてもらって寝かしてありました。「起令！」と呼ぶと「お母さん、大丈夫だよ。」とはっきりした返事が返って来た時の嬉しさは、何に例えようもありませんでした。後から高校に通っている姉嬢からその時の事情を聞いたところ、運転手の人は、四月に免許を取ったばかりで、飲酒運転で道路をジグザグに進んでいたそうです。いまでは、大分、落ち着いては来ましたが、あんなに元氣だった子供がベットに足を固定させ、じっと寝ていなければならぬこと、手術の時に、もう手術は死んでもしないと叫ぶ声、を聞いた時などは、ひどく痛しい気持ちにおそわれました。後で後遺症が出なければよいがと、それがただ一つ心配です。事故にあつてからは間に合いませんので、子供さんたちに十分注意なさって又、運転者の方は、お酒を飲んだら絶対に運転をしないと心に誓って頂きたいと思えます。最後になりましたが、育友会の方々の御好意、有難うございました。

### 鈴 虫

崩山町宮副亮典

去年、百匹余りの鈴虫を貰い飼育した。四、五回脱皮をくり返し、成虫になると雄は鳴き始める。最初四、五匹で鳴く間は、美しい風情のある声に魅せられたが、次第に数が増えて、一斉に鳴き始めると、喧嘩でさえあった。やがて、雄と雌の結婚が始まり、産卵を終えると死んでいくがその死骸は、次々に生き残ったものに食べられ、最後は、ただ一匹だけ死骸が、虫かごに残ったのは、意外な生體であった。今年は、五月中旬頃から、孵化し始め、五百匹になつたある朝、蟻の大群が押し寄せ、幼虫は全滅させられた。子供達は、悲嘆したが、生き残った卵から、次々に幼虫が生まれた時は、ほんとにた。フアールの昆虫記によると、昔から蟻は、働きものとして、ほめたたえられているが、これは作り話で、本当は蟻は、他のものから横取りする、しつこい盗人、残忍な殺し屋と、書いてある。

印象

深かった

熊本城

六年 宮崎 久美

修学旅行

五月十三日。家族の人におくられて天草、阿蘇と見学した。旅館で休み友だちと一ときをすごした。

五月十四日朝、

旅館を出て熊本城、動物園、ナショナル工場と見学し、わがやへと足をいそがせた。楽しいことばかりでよその土地を見てまわることもいいものだと思った。

その中でも熊本城が印象に残った。こさめの中をかさをさしながら見た石がきは、とても美しかった。城の中に入った。最初に入った所は石がきにかこまれていて、とても

うすぐらくまるでねずみのすのようだった。古い石がきがないか語りかけそりにしていた。頭のおくになぜか、いくさでさわいでいる人の声。よろいを着てかけごえをあげている人の姿。祭りで楽しそうにおどっている人の笑顔。がうかんできた。歴史を語りかけてきそりだ。宇土やぐらはそれ以上に、つたえてくるような気がする。

城から見えるけしきは、所々に緑が見えて美しくまた、城にはいる前を通る道の両側にあるすぎの木は、ばん人のようだ。もしものばあいにつくられた多くの井戸。心をおちつかせてくれるような木々が植えてあった。

むかしのやさしく静かな歴史と時代を思わせられるような気がする。城は、むかしのやさしさとそのようすを、静かさのない所にすんでいる今の人たちにそっと知らせるような気がしてたまらなかつた。

草千里と

阿蘇

六年 江崎 裕子

わたしたちのたくさんの希望をのせたバスが修学旅行へと向った。パールラインを通って、草千里についた。ほんの少しさしかかったと

ころ、目のさめるような美しいエメラルドグリーンが、わたしの目をとらえた。まっ青な大空に、うすい純白の雲がかかっている。手をのばせばすうっと、にげてゆきそうなのやわらかな雲。そんな場面を背景に、やわらかなピロードの草原。まるで、バスが、え

のぐばこの中にはいたようなあざやかな色彩。今すぐ、たくさんの春をつげる小鳥が飛びだしてきそうな情景だった。強い風がふきつけている。

広いやわらかなしほふの上に、白馬がつないでいる。純白のたてがみが、風にあふかれてとても美しく思えた。

童話の国にきたように思えた草千里から阿蘇へと向かう。阿蘇についた。ロープウェイも動かすことのできない風の強さ。登り初めた時、たくさんの火山ばいが、わたしたちの目をふきつける。小石がふきつける。やっとのことで登りついた火口は、強くてたくましかった。大男が、地の底で、「ゴォー、ゴォー。」というものすごい声をだしているように聞こえる。広くゆるいだいな火口をのぞけば、じごくの世界をのぞいているような感じをうけ、めまいがする。足がすくむ。風は風で、いじわるそうに、火山ばいや小石をふきつける。どんなにいたさがしみじみと感じられたものだろうか。

やさしく母のような、草千里の情景。きびしく父のような、阿蘇の情景。

同じ自然の情景なのに、どうしてこうもちがうのだろうか、考えさせられた。それと同時に、自然の中にとけこんだ気がする。



長崎  
社会科見学

わたしのみた  
長崎

四年 はまもとときわこ  
わたしは、長崎見学でいろいろなものを見ました。とちゅうで、黒田ちよ木場を見ました。まるのままの木がありました。そして、パイバスをおりました。トンネルもとおりました。四つありました。立体こうさも、とおりました。ケーブルカーに乗った時、おそろしかったです。のぼっているとき、下にさがるような所がありました。みんな、キヤーキヤーいっていました。ケーブルカーにのって下を見ると、家が、小さく見ええました。長崎びわを作っている所も見えました。バスの中の歌は楽しかったです。へんな歌やなどなど、いろいろな歌もありました。国さい文化会かんで、原ばくのようにすを見ました。「こんなに原ばくは、おそろしいのか。」と思いました。わたしは、このようなことは、二度とならない

ほうがいいと思いました。つみのない子どもたちまでくるしむ、こんなことは、ほんとうに、二度とあってほしくはありません。原ばくのおかげで、だれもがまい日死んだりくるしんだりしています。いまでも、ほうしゃのうをうけた人は、つぎつぎと死んでいきます。「ほんとうに原ばくはおそろしい。」そう思いました。いなさ山にのぼって見たときの、長崎のけしきはきれいでした。絵にかきたいぐらいきれいでした。へい和こうえんにもいきました。かた足とりいもありました。

ある道路から、白土湖を通って大手を通って長崎にむかいました。とちゅう、諫早のりくじょうきょうぎじょうの横で休みました。諫早のかんたくちはとても

る像がありました。それに、大きな石に「国宝大浦天主堂」ときざんであり、スタンドグラスが見えました。そのあとグラバー園へ行き、うごく歩道に二回行って行きました。

でも見えたし、べんとうもおいしかった。国さい文化かいかにある、原ばくしりょうかんにいくと、きもち悪いものが多く、十一時二分でまった時計や、とけたスタンドグラス、生まれていない時原ばくにあって、やけた赤ちゃん、とけたいっしょうびん、まがたつ、トタン板、こわれたみつびしぞうせんじょなどの写真や本などのしりょうがたくさんあった。平和記念像も思ったより大きかった。帰るとき、浦上天主堂や、

これだけ広いかんたく地を作ったものだな。」と思った。諫早から長崎に行くときは、自動車が多く、十二台ぐらいならんでいました。

行くときに、一つトンネルにはいりましたが、暗くて、でんきがついていなくて、ていでんのようにした。

「自由てい」という西洋りょうり店や、大理石でできたトーマスグラバーの顔が石で水のふきでている音楽のがくふなどがあり、グラバー園あたりは外人の住宅地で、グラバー宅にはいつて見ると、絵やグラバーのどうぞうや、出島のもけいなどがありました。

によこ堂を見た。にょこ堂は、死んだ永井はくしの家で、二じょうで一へやの小さな家で、大野くんが「よくすまれたなあ。」といいました。

かた足とりいは原しばくで、かたいっぽうはこわされたそりです。

長崎市内にはいると、大きなたてものが多くて、県庁の前を通過って横を見ると、福岡銀行という大きな銀行がありました。

県庁にいて、いろいろしつもんして見ると、今年の県の予算は千九百五十億円で、県庁のできた日とかかったお金は、昭和二十八年三月三十一日かんせいして、やく四億円ぐらいかかったそりです。

行ったとき、帰るときの、歌やなどなどは、とてもおもしろかった。

そこへ、先生たちがきて、組ではんべつにならんでから、バスにのって、プールの横に

それから、石にきざみつけてある字を読むと、「シーボルト宅あと」ときざんであるのがありました。

それから、大浦天主堂の外からみていると、入口の所に、マリアの大理石でつくってあ

長崎見学はとてもおもしろかった。

そこへ、先生たちがきて、組ではんべつにならんでから、バスにのって、プールの横に

それから、石にきざみつけてある字を読むと、「シーボルト宅あと」ときざんであるのがありました。

それから、大浦天主堂の外からみていると、入口の所に、マリアの大理石でつくってあ

長崎見学はとてもおもしろかった。

そこへ、先生たちがきて、組ではんべつにならんでから、バスにのって、プールの横に

それから、石にきざみつけてある字を読むと、「シーボルト宅あと」ときざんであるのがありました。

それから、大浦天主堂の外からみていると、入口の所に、マリアの大理石でつくってあ

長崎見学はとてもおもしろかった。

そこへ、先生たちがきて、組ではんべつにならんでから、バスにのって、プールの横に

それから、石にきざみつけてある字を読むと、「シーボルト宅あと」ときざんであるのがありました。

それから、大浦天主堂の外からみていると、入口の所に、マリアの大理石でつくってあ

長崎見学はとてもおもしろかった。

そこへ、先生たちがきて、組ではんべつにならんでから、バスにのって、プールの横に

それから、石にきざみつけてある字を読むと、「シーボルト宅あと」ときざんであるのがありました。

それから、大浦天主堂の外からみていると、入口の所に、マリアの大理石でつくってあ

長崎見学はとてもおもしろかった。

そこへ、先生たちがきて、組ではんべつにならんでから、バスにのって、プールの横に

それから、石にきざみつけてある字を読むと、「シーボルト宅あと」ときざんであるのがありました。

それから、大浦天主堂の外からみていると、入口の所に、マリアの大理石でつくってあ

長崎見学はとてもおもしろかった。

# 津町

## 育友会

### バレー部

津町 本田 武彦

昭和四十七年十月第一回育友会バレー大会が開催され、わが津町チームは下川尻、新山東に対戦したが惨敗に終わった。しかし反省会になるや、

## 町内育友会の活動

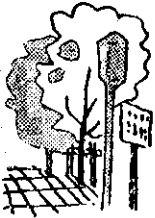
いなや、某料亭を貸切り「参加する事に意義あり」「相手が強すぎた」等いわいがやがや、その暇ぎやかなこと、まるで宴会の為にバレー大会に参加したような雰囲気。

そのうち唯がいうともなくバレーを続けようという話があるが、その場ですぐバレー部が結成された。毎週二回二中体育館で練習する事になったが、その練習が、すごい。反則なんかクソくらえとやりたい放題。その

ためかどうか知らないが、結成当時二十五名いた部員が十名に減り五組の夫婦、つまりアベックチームになってしまった。そしてどんなに練習しても一向に上達せず、かわりに夫婦の仲が益々よくなり、たとえは猛烈な夫婦喧嘩をしていても、いつのまにか仲なおりして手をつないで帰る有様、いったいバレーの練習をするのか夫婦喧嘩の後始末に来るのかよくわからない。あまりの珍練習にあきれたのか当時十九才の高校バレー界の名選手といわれたT君が、コーチ役を買って出た。しかし初歩からやりなおしと聞いて全員うんざり、それもそのはず、四十すぎの男が自分の息子みたいな少年にシゴカれるのだから無理もない。胸はドキドキ、喉はカラカラ、足はフラフラ、目はクルクル、口

シビレ、腕はコイルタールを塗ったようにドス黒く腫れあがってしまった。「こん畜生俺達を殺す気だな」「よしそれならば俺達だつて負けるものか、腕の一、二本折れたつて最後までやってやる」「限界に挑戦だ」と年の取甲斐もなく、逆に少年のように純粋な心で本格的に練習を始めたのであります。

そして研究会を月に一回開き、バレーをはじめ子供の教育から性の問題まで、取組み研究しております。その結果かどうかわかりませんが、四十八年度は準優勝、四十九年度はバレー部結成二年目で宿願の優勝を果たしたのであります。本年度は追われる立場になりましたが、より高度な技術に挑戦し、健康を維持しながら若い人達に負けないよう、頑張りたいと思っております。そしてバレーを通じて、育友会活動を推進したいと考えっております。



## 桃山の子ども会

桃山町 永木タマ子

新米の代議員になり、何が何やら分からずに、まず五月五日の子供の日の行事がやってきました。諸先輩方の指導をもとに、いろいろと案を作



り、今年も子供達の要望をかなえ親子大会を三小校庭で行ないました。町内のユニホームを各々身につけ、中でも一年生の喜びは、又格別です。ソフト、フットベースボール、と相互に競技し、子供達も日頃の腕前をみせ、又親も精いっぱいファイトを出し、またたく間に昼食となりました。指導員方々の、手作りのおにぎり弁当が手に手に渡り、皆空腹を満たすまで、ほおばっていました。子供数三十名、大人二十一所帯のうち三所帯が、不参加という成績で本当に楽しい子供、大人の日を過ごしました。「火の用心と戸締りをお願いします。」これは戦争が終った頃、私達の子供会活動の、一ツの夜廻りの句です。その頃は、町内育友会

というのもなく、指導してくれる人もなく、すべて近所の子供達が集まって遊び事、行事事など、高学年で決めていました。年に一度、火の用心の夜廻りのお札に、近所のお母さん達がとり飯、魚飯等作って御馳走して下さった事が、なつかしく思い出されます。テレビ、ラジオ、小使いもない時代に、遊び道具のほとんどを、自分達で作っていた頃は、すばらしい子供会だったと思います。現代っ子供達でも「こんな子供会が作れたらいいなあ」とつくづく思います。先日、県より子供会安全会の説明にいらっしやうした時、「少年の心ふるさとを」と題して、年間計画に折り込むように指導がありました。ふるさと遊びを伝える、又作り出す活動役割を分担させ、動く活動にするという方針です。先にもべた事は、たゞ自然の中で過した日々が、今となっては累の方針として打ち出されるようになりました。今の子供に欠けている面を補うためには、私達が余りにも手をかけすぎているようです。もう一度周囲をみまわして、思い切った指導、しつけてみようではありませんか。

# 夏休みの各町内

## レクリエーション

### 活動計画 (七月三日調へ)

- 新山町西  
日時未定  
親子大会予定 (スポーツ)
- 新山町東  
八月三日  
千々石海水浴場行き
- 崩山町  
八月三日  
「火の国ランド」行き
- 坂上町  
日時未定  
妙高寺にてキャンプ
- 坂下町  
八月十七日  
「火の国ランド」行き
- 八幡町  
七月十九日、二十日  
千々石「青少年自然の家」
- 栄町  
旅行の日時・目的地未定  
バスのみ確保
- 蛭子町  
七月十九日、二十日  
千々石「青少年自然の家」
- 桃山町  
八月三日  
長崎市内遊覧 (水族館)
- 靈南町  
六月八日すみ  
夏の暑さを避けて六月中に
- 「火の国ランド」行き実施  
白土上  
七月二十二日、二十三日  
千々石「青少年自然の家」
- 浦田上  
八月九日、十日  
三小校庭にてキャンプ
- 津町  
八月二日、三日  
キャンプ (場所未決定)
- 漢新地  
八月三日  
バス旅行 (目的地未定)
- 蛭子鼻  
八月六日  
加津佐白浜海水浴場
- 南風泊  
七月二十八日頃  
「森の滝」行き (人員が少人数の為自家用車三台にて)
- 下川尻北  
未定 (近くで親子でたのしめるレクリエーションを実施する予定)
- 下川尻南  
八月三日  
大村「くじやく園」行き  
白土丹津下 浦田丹津下  
有馬丹津 元丹津  
広馬場上 広馬場下

中組 川尻

右の八町内は、七月の町内育友会の席で、相談・決定され実施されるということです。七月三日現在では、未決定となっております。

広報部

### 育友会



### 体育部からのお知らせ

○五十年年度少年団球技大会  
一期日 七月二十七日(日)  
雨天順延 八時三十分開始

二会場 男子 霊丘公園  
女子 三小校庭

三種目 男子 ソフトボール  
女子 フットベース

※ソフトで二号パットも使用してよい。女子は五バートに分け、リンクリーグ戦で同率の際優勝決定戦を行う。

○第五回少年団水泳大会  
一期日 八月二十四日(日)  
雨天順延 午前九時開始

二会場 三小プール  
三種目 25m自由型・平泳  
50m自由型・平泳

対抗リレー(六名男女混合)  
個人競泳は学年別・男女別

### 本校に

### 就任して

四年担任 吉岡 晃

福岡教育大学を卒業して、第三小学校に来てから、早三ヶ月が過ぎようとしている。この三ヶ月間(正確にいうと二ヶ月半)なんだか仕事に追われ追われてどうにかこうにか過ぎて来たような気がする。が、やっと学校の雰囲気にも慣れてきたようだし、これからはもっと自分のやりたいことをやるような気がする。また、やってみたい気持ちでいっぱいである。

それに、第三小学校へ来て驚いたことはたくさんあったのであるが、その中で特に驚いたことを述べてみると、まず第一に、授業以外の雑役が多い事である。とにかく、四月中は特に忙がしかったように思える。そして次に、子供達の元気のいいのには驚ろがされた。教生実習の時に行った学校は、教生というわくがあったからだろうが、さほど忙がしさを感ぜなかつたし、子供達も元気よく活動して、なかつたように記憶している。

しかし、どんなに騒いでもどんなにおうちやくでも、やはり子供は可愛い。今はもう毎日朝子供達と会うのが楽しみの一つになっている。教師になった時の抱負としては、いろいろあったのであるが、まだそのほとんどが叶えられていない。それはまだ、就職してから三ヶ月も経っていないのだからしかたがないと思えばしかたのないことであるが、できるだけ早く、できるだけ多く叶えられるように努力したいと思う。

その抱負の中で特に重点を置いて考えていたことは、子供と一語になって遊べる教師になりたいということであった。子供の教育(教育といえど難かしくなるが)または学習は、自分としては遊びからつまり楽しい経験から生まれてくるのではないかと考える。子供を委縮させてしまつては、子供の自主的、自発的学習は失なわれてしまふに違いない。おこる時はおこり、ほめる時はほめ、また楽しく遊ぶ時は楽しく遊べるような教師を目指して進んで行きたい。

# 教育雑感

浦田町下  
中山博昭

新入学として、はや、三ヶ月が過ぎようとしています。毎日ランドセルを背にして楽しく通学している姿を見ると自分の小さい時を思い出しました。最も私の小学校入学時は、終戦直後の中であんな立派なランドセルはありませんでした。今の小学生は教科書教材に至る迄何一つ不自由な事はなく本当に幸せだと思えます。私事の教育についての要望を一言。日本の教育再建が呼ばれている今日。義務教育の時の落第とでも云いますか、つまり、落第させる事に依ってその子が分らないところを分るまで教えられる事によって能力開発なり実力を付ける厳しさの中に物事をわからせる努力をもってどんなにやっけて頂きたい。確に小中学校の生徒に落第を経験させるのは好ましくはないと思えます。しかし訳が分からなくても自動的に進級、卒業させてしまう制度は、やはりおかしな感じがします。

今後の教育制度の課題とは思いますが、広く参考になる実例なり知恵をかりながら、現実的に割切った教育が欲しいものです。

## アンケートの結果から

(広報部)

ご協力ありがとうございました

ごさいました

先日、皆様にお願ひ致しました「がんば」に関するアンケートを集計した結果、次のようなお答えを戴きました。

配布総数 七六九通

回収総数 五一九通

回収率 六七・五%

①「がんば」が発行されていることを知っている 八二%

知らない 一八%

知らない、回答を寄せられたのは、新一年生を持つ御家庭からの大半でした。

②「がんば」を読んだことがありますか。

ある 七九%

ない 二二%

「ある」が一〇〇%になるより頑張ります。

③あなたの家でどなたが「がんば」を読みますか。

父 三一%

母 五九%

祖父 一%

祖母 三%

その他 四%

無回答 二%

④「がんば」は年に何回発行されているかと思ひます。

一回 八%

二回 二四%

三回 四四%

四回 一七%

五回 四%

六回 三%

⑤ページ数はどう思われますか。

ちょうどよい 九一%

多い 三%

少ない 六%

⑥「がんば」の内容について、市内各学校共同じようなページ数のようですか。

かたすぎる 一二%

ちょうどよい 六八%

おもしろい 二〇%

⑦「がんば」は年に何回ぐらゐの発行がよいと思ひますか。

一回 三%

二回 一二%

三回 四二%

四回 二五%

五回 一〇%

その他 八%

本年度は三回の予定です。予算の関係もありまして「がんば」は年に何回発行されるのとは別に興味をもたれるのはどんな内容ですか。

⑧「がんば」で特に興味をもたれるのはどんな内容ですか。

専門部の活動 一四%

町内育友会のような二〇%

子供会のような二六%

学校の教育方針 二九%

学校内のできごと 四〇%

児童の作文等 四四%

会員の投稿 二四%

⑨家庭学習の問題 四六%

回答が複数ですから、回答数に対する%を出しました。

従って合計で一〇〇%を越えます。

以上

その他に貴重なご意見を多数お寄せ戴きましたが、中でも一番多いのが、記事の内容をもっとくだけたものにして欲しいと云う事でした。

会報の性格上多少かたい内容になるのは、やむを得ないと思ひますが、会員の皆様の

ご投稿や、写真等を、今后豊富に、掲載していきたいと思ひますので、ご意見、ご感想等をどしどし御寄せ下さる様、御願ひ致します。

ご協力有難うございました

## 編集後記

本年度、第一号の「がんば」をおとどけ致します。

アンケートによって貴重なご意見を、多数戴きましたので、皆様方のご要望にそえるよう、頑張りたいと思ひます。

尚第二号は十二月に発行の予定です。ご意見、ご感想等がございましたら、どしどしお寄せ下さる様、お願ひ致します。

